

南河内のぶどうを P・R販売

大阪府南河内農と緑の総合事務所とJA大阪南は、100年以上の栽培の歴史があり、府内でも最大の規模を誇る南河内のぶどうの魅力を広く知ってもらうため、8月8日に南海なんば駅2階中央

ロイベントスペースで南河内ぶどうマルシェを開催した。

当日は大阪府の独自の品種である「虹の雫」を始めシャインマスカットなど12品種約300房が販売された。

「虹の雫」は8月が最盛期で、試食した方々は「甘くていい香り」と大変好評で、早速買い求める方もあった。また、南海電車の改札口という場所から、外国人観光客も多く、試食するとその美味しさに驚いていた。

また、シャインマスカットは南河内でも栽培面積が拡大し、

20ヘクタールの規模になりつつある。今後も植え替え時期のぶどうはシャインマスカットに更新されることが多いため、ますます面積の拡大が見込まれる。これまでは直売が主流で販売できていたが、さらに増加する生産量に対応するため、市場出荷の拡大を見据え、JA大阪南はシャインマスカット部会を立ち上げ、大阪市中央市場への出荷を行っている。そのため、今回は南河内のシャインマスカットもP・R品目とした。

13時から販売を始め、ほとん

ど完売するなど大変人気であった。「虹の雫」は8月で出荷が終わるが、シャインマスカットは9月以降もJA直営の直売所あすかてくるなどで販売する。

主催した南河内農と緑の総合事務所は「今後、シャインマスカットは品質、規格を揃え、市場での評価を高めたい」とこれからの意気込みについて力強く語った。

(藤岡)



「虹の雫」の試食はとても好評だった

なにわ農業賞受賞者紹介85 消費者が求める花の提供を

大阪市 金田 博充さん

平成30年に「なにわ農業賞」を受賞した金田博充さん(54)は、大阪市住吉区沢之町でパ

ンジーやベゴニア、ガーデンシクラメンなどの花壇苗を約63万生産し、年間約22〜25万鉢出荷している。

金田さんは大学卒業後に就職したが、先代である父が大阪市の入札指定業者に選ばれたことをきっかけに「忙しくなる父を手助けしたい」と、平成9年に就農。平成16年頃

からは体調を崩した父に代わって金田さんが経営の中心となった。

父から受け継いだモットー「よい商品を作る」の経営姿勢を心掛け、経営継承後は高単価の作目・品種に特化し少量多品種生産する経営形態に移行した。販路の見直しも行い、主な取引先の卸売市場のほか、現在JAの直売所への出荷に注力している。

金田さんは市場関係者との

情報交換や直売所の売れ行きなどから消費動向を把握し、変化するニーズへの即応を心掛けています。「5年前と同じ品種を生産しても売れない」と毎年必ず品種を選定するほか、品種に合わせて鉢のサイズを変えて育苗するなど品質の向上にも取り組んできた。

花の消費拡大や地域貢献活動などにも積極的で、これまではJA大阪府総代や大阪市花き生産組合会長に就任。市内JAの夕市に参加するなど都市住民が花と触れ合う機会を創出してきた。また地域

の福祉施設や学校に花壇苗を

納入しているほか、中学生の職場体験を支援学級の生徒も含め毎年受け入れている。

現在は大阪府花き園芸連合会鉢花部会員として、同連合会が受託した大阪・関西万博への花苗の納入の一部を担当。金田さんは先方から注文のあった品種のうち、自身を含め部会員に生産経験のないものを積極的に受け持ち、フィロステギアとミューレンベルギアを万博屋根リングの屋上へ出展している。

金田さんは「花には心を癒す力がある。花に親しむことでたくさんの人たちに穏やか



「室内で楽しめる観葉植物の生産販売が直近の目標です」と金田さん

な気持ちになってほしい」と話してくれた。(林佑)